

ロボテック戦略レター

半導体不足の影響は？

影響は一時的、半導体企業やロボット関連業界には中期的に恩恵に

◆トピック「5Gで自動化は次の成長ステージへ」◆

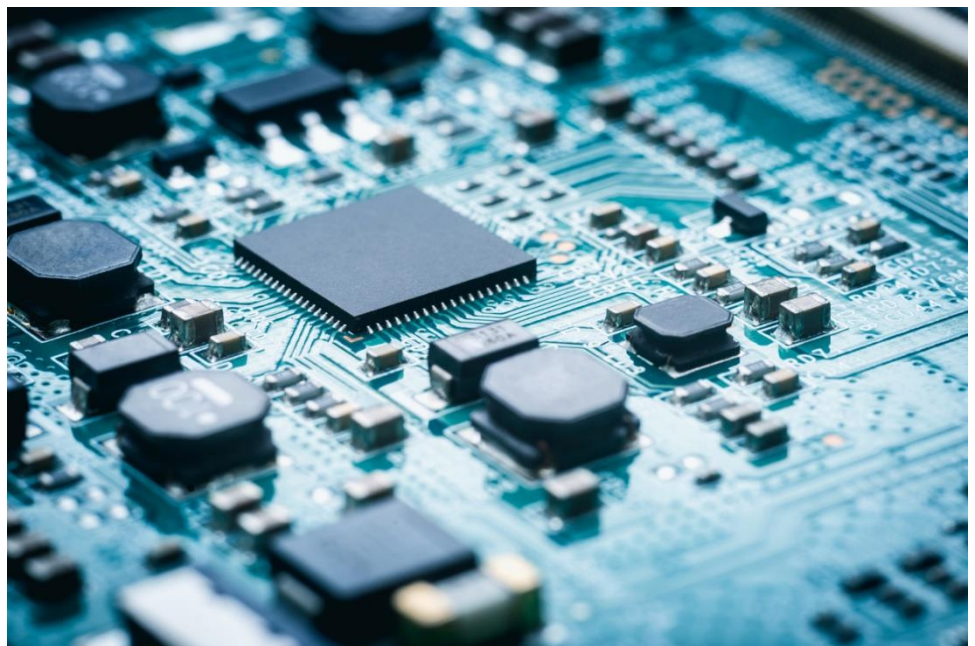
世界的な半導体不足が続いています。特に車載半導体関連の不足が響いており、主要自動車メーカーは半導体の部品不足のために減産を余儀なくされています。

ロボット・テクノロジー関連企業の飛躍的な成長に注目しているロボテック戦略では、半導体不足関連の影響は一時的で、供給不足は徐々に解消に向かうと見えています。自動車販売の回復やスマートフォンなどの消

費者向けエレクトロニクス分野の強い需要が半導体セクターを支えると考えています。さらに、半導体不足は半導体企業にとって強気の価格設定を可能にし、利益率の向上につながることに注目しています。

半導体不足の背景、自動車メーカーへ大きな影響

半導体不足にはさまざまな背景があります。まず、スマホ、パソコン、データセンター用サーバーから自動車に至るまで半導体需要が急速に拡大しています。その上で昨年9月、米トランプ政権下で中国の



世界的な半導体不足が続いており、主要自動車メーカーなどで大きな影響が出ています。今後供給不足は徐々に解消に向かうとみられます。

通信機器大手華為技術（ファーウェイ）に対する輸出規制強化が発動され、中国製半導体利用が制限されることになり世界的な半導体不足をもたらしました。さらに、今年2月、米テキサス州の寒波とそれに伴う停電で同州内のサムスン電子（韓国）、NXPセミコンダクターズ（オランダ）、インフィニオン



半導体不足のため、自動車各社は製造ラインの休止および減産に直面しています。

（ドイツ）などの半導体工場が一時的に生産を停止したことや、3月に日本の半導体大手ルネサスエレクトロニクス的那珂工場（茨城県）の車載半導体製造工程で火災があり、生産が一時停止したこともあります。

特に車載半導体が不足したため、ゼネラル・モーターズ（GM）は北米の一部完成車工場での生産を休止しました。電気自動車メーカーのテスラもカリフォルニア州の工場の生産を一時休止し、ホンダも北米工場の生産を一時休止しました。フォルクスワーゲンの一部工場では減産を行いました。日産自動車は半導体

不足のため、英国工場では一時帰休に踏み切りました。三菱自動車も日本およびタイで減産を行っています。

バイデン政権、半導体不足で関係者と意見交換会議

このため、バイデン政権は4月12日に半導体のサプライチェーンに関してホワイトハウスで産業界と意見交換会議を行い、半導体の米国内生産の拡大に意欲を見せました。会議にはサムスン電子などの半導体メーカーや、GMなどの自動車大手なども参加しました。バイデン政権としては、今後半導体不足が起きないように、産業界、議会、同盟国と緊密に連携する必要がある、と認識しています。16日の日米首脳会談でも、半導体を含むサプライチェーンに関する連携で一致しました。

この流れを受け、米国内での半導体生産拡大に拍車がかかりそうです。台湾積体回路製造（TSMC）は今年、120億ドルをかけて米アリゾナ州で半導体工場に着工し、2024年に量産を開始する予定です。なお、最近の報道では、TSMCは中国で車載半導体を増産する構えです。約29億ドルを投じ、南京市の既存工場に新ラインを設置し、2023年に量産体制に入る見込みです。

サムスン電子も米テキサス州の工場を拡張予定です。インテルは3月下旬、アリゾナ州に200億ドルをかけて半導体の新工場建設を発表しました。

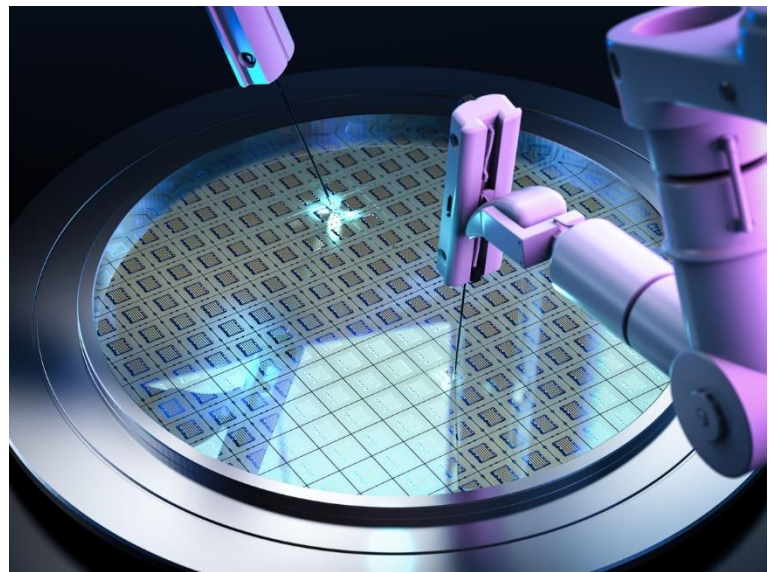
こういった先進国への生産回帰は、ロボテック戦略が注目しているロボット・自動化関連企業にとって追い風と考えられます。労働人口が減少している先進国での製造では、いっそうのロボット導入が求められます。さらに、5Gにより工場内のIoT（モノのインターネット）導入が進み、高度な自動化が加速しています。

なお、半導体増産への動きが相次いでいますが、半導体不足は当面続く見込みで、半導体企業にとって強気の価格設定を可能にし、利益率の向上につながるとロボテック戦略では見えています。

ロボテック戦略、日本の自動化関連企業に注目

ロボテック戦略ではまた、日本の自動化関連企業にも注目しています。ダイフクは株価は低迷していますが中長期的なポテンシャルに着目しており、ファナックは好調な受注が追い風となっています。

ダイフクは半導体や液晶パネルのクリーンルームで使う搬送機器の生産拠点の増強を計画しています。同社は40億円弱を投じ、中国江蘇省蘇州市にクリーンルーム用搬送機器の生産拠点を構築し、23年の稼働を目指しています。半導体向けの設備は需要変動の波が大きいですが、同社は需要拡大期に柔軟に対応できる態勢を取ろうとしています。



一方、ファナックは中国における旺盛な自動化需要に対応し、260億円を投じて上海半導体製造関連など産業用ロボットの需要は高水準で推移すると予想されます。

す。中国経済は新型コロナウイルス禍からいち早く立ち直っています。そして、各種製造を重視して電子機器など様々な分野で生産の自動化を推進しています。

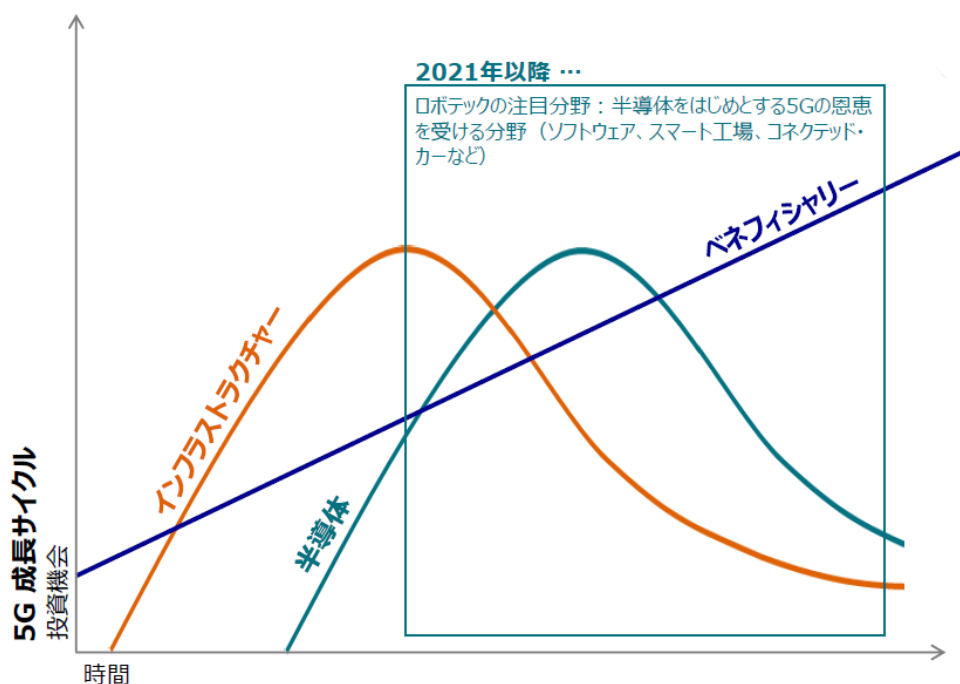
直近のコロナ感染拡大には注意を要しますが、ロボテック戦略では、2021年のコロナ後の景気回復局面を見据えて産業用ロボットの需要は高水準で推移すると予想しています。現在のところ、中国の回復が際立っていますが、これに米国が続いています。一方、欧州や日本はやや遅れをとっています。コロナ禍による繰り延べ需要に加えて、2019～2020年にかけて米中貿易摩擦の影響で投資を手控えていた企業からの需要も本格的な回復の兆しを見せ始めており、長期にわたって高水準の生産や設備投資が続き、ロボット・自動化関連企業にとって追い風になると思われます。

◆トピック◆

5Gで自動化は次の成長ステージへ

5G（次世代高速通信規格）は導入が始まったばかりで、今後、産業機械や工場、自動車の接続性を飛躍的に向上させ、あらゆるモノがネットワークにつながります。完全に自動化されたスマート工場の稼働や高速で走る自動運転車の制御も可能となり、自動化の可能性は次の成長ステージに移るでしょう。5G移行に伴い、携帯電話の基地局増設、新たな携帯端末の導入、自動化向けの5G対応各種通信機器の導入により、半導体やソフトウェア関連を含め、ロボットや自動化関連企業にとって大きな成長機会となります。

5G関連の展開については、インフラや半導体は短期的に急速に市場が拡大する見込みです（下図参照）。さらに重要なのは5Gのベネフィチャリー（恩恵を受ける分野）で、5Gの本格稼働やネットワーク拡大の恩恵を受ける企業が含まれます。IoT（モノのインターネット）分野や、スマート工場、スマートホームが含まれます。仮想現実（AR）や拡張現実（VR）、自動運転車もそうです。ロボテック戦略ではこういったエキサイティングな分野の企業を多く保有しており、今後投資機会がさらに拡大するでしょう。



出所: アクサIM

関連リンク

[アクサIMのロボテック戦略について](#)

[フラムリントン株式: 注目のテーマ株式](#)

[ポートフォリオ・マネージャーが語るロボテック戦略への新型コロナウイルスの影響](#)

ディスクレーマー

アクサIMについて

アクサ・インベストメント・マネージャーズ（アクサIM）は責任ある資産運用会社であり、長期的なアクティブ運用を行うことで、お客様、従業員、そして世界の繁栄を支援しています。当社の確信度の高い運用アプローチにより、代替資産クラスおよび伝統的資産クラス全般で最も良好な投資機会と考えられるものを追求しています。2020年12月末時点で約8,580億ユーロの運用資産残高を有しています。

アクサIMは、グリーン、社会、サステナブル市場における先進的な投資家であり、5,550億ユーロにおよぶESG（環境、社会、ガバナンス）統合済みのサステナブルおよびインパクト資産を運用しています。当社は、2050年までに、全運用資産における温室効果ガス排出のネットゼロ達成をコミットしており、株式銘柄選択から企業行動や文化に至る当社の事業にESG原則が組み込まれています。当社の目標は、社会と環境に有意義な変化をもたらしつつ、お客様に真に価値のある責任投資ソリューションをご提供することです。

アクサIMは20カ国27拠点において2,440名余の従業員を擁し、グローバルな事業を展開しています。アクサIMは、世界最大級の保険および資産運用グループであるアクサ・グループの一員です。

投資リスク及び費用について

当社が提供する戦略は、主に有価証券への投資を行いますが、当該有価証券の価格の下落により、投資元本を割り込む恐れがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動によっては投資元本を割り込む恐れがあります。したがって、お客様の投資元本は保証されているものではなく、運用の結果生じた利益及び損失はすべてお客様に帰属します。

また、当社の投資運用業務に係る報酬額およびその他費用は、お客様の運用資産の額や運用戦略（方針）等によって異なりますので、その合計額を表示することはできません。また、運用資産において行う有価証券等の取引に伴う売買手数料等はお客様の負担となります。

【ご留意事項】

当資料は、アクサ・インベストメント・マネージャーズの情報提供に基づき、アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社が翻訳・作成した資料です。

当資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の有価証券その他の投資商品についての投資の勧誘や売買の推奨を目的としたものではありません。

当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成しておりますが、正確性、完全性を保証するものではありません。当資料の内容は、作成日時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料に記載された運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の情報であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

当資料を事前の了承なく複製または配布等を行わないようにお願いします。

アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社

金融商品取引業者 登録番号: 関東財務局長（金商）第16号

加入協会: 一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人投資信託協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会、日本証券業協会

Ref-20727